新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第84号

§ 平成 28 年度新潟県野生生物保護実績発表大会 §

県内に 38 校ある愛鳥モデル校は、野鳥を中心とした野生生物の保護活動を行い、その活動実績を毎年県に報告いただいております。

当センターで 7 月 1 日に書類審査をさせていただき、特に優れた活動を行っている学校を選出し、県大会を 8 月 18 日に新潟県自治会館本館で開催しました。大会では、各学校で行われている探鳥会などの愛鳥活動や、地域の方々と一緒になって行っている自然保護活動についての発表がありました。どの学校も熱心に活動している様子がよく伝わる大変良い発表会でした。

審査結果は以下のとおりです。

金賞	長岡市立中野俣小学校
銀賞	阿賀野市立水原小学校
銅賞	阿賀野市立笹岡小学校 新潟市立赤塚中学校

金賞を受賞した長岡市立中野俣小学校は、「愛鳥モデル校活動において長い歴史があり、探鳥会の他に毎日の野鳥観察、生き物マップの作成、天然ビオトープ「カワセミの池」の清掃、水生生物調査などの活動を通して里山の自然を良く見ている。今後は、さらに活動を地域環境（自然、自然と人々の暮らし）につなげて、森の中などへも視点を広げていってほしい。」と審査委員から講評をいただきました。なお、金賞受賞校は公益財団法人日本鳥類保護連盟主催による全国大会へ推薦しました。

また、今年度も審査時間を使って「研修会」を行いました。昨年度金賞受賞校の上越市立春日小学校藤山教諭より「春日山の環境保全活動を支えているもの」と題して講演を行っていただきました。

地域と連携して、子供たちが「次の活動への意欲」につながるよう取組を行っていることについて大変分かりやすく紹介していただきました。

金賞受賞！中野俣小学校

§工作教室を開催しました§

7 月 31 日（日）に、野鳥の羽のしくみが理解できる工作教室を開催しました。これは、野鳥をモデルとした工作を行うことによって、野鳥の生態や特徴を理解し、自然を身近に感じ親しんでもらうために開催されたものです。モデルは、みなさんに人気の「カワセミ」です。まず愛鳥センター所長から、羽の名前や役割についてのお話を聞いた後、作業に入りました。

カワセミの羽の型紙を切り、ストローと針金で作った腕の骨に一枚一枚貼っていくのですが、意外に細かい作業なので最初はみなさん少し大変なようでした。しかもつばさの羽（初列風切・次列風切・三列風切）には順番があり、ちゃんと貼っていかないと形がおかしくなってしまうので、集中力も必要です。でも慣れてくるに従って、てきぱき作業を行っていました。

羽根の形に切り抜く作業

羽根を貼り合わせて完成！

つばさの羽の貼り付けが終わったら、紙粘土で作られたカワセミの体に合体させます。そして、さらに尾羽や体の羽を貼り付けて完成です！

難しい専門用語が出てきたり、作業が細かかったりしましたが、参加者の方々からは、「羽のしくみについて本で読むよりも分りやすく理解できました。」「羽のしくみがこんなに複雑なのにびっくりしました。」「楽しく勉強ができました。」などのご感想をいただきました。

§愛鳥教室　野鳥の羽でしおりを作ろう §

野鳥にもっと親しんでもらえるよう、昨年度から開催しています。今年度は 5 月 3 日～5 日（開催時間：午後 2 時～午後 3 時 30 分）に開催しました。

身近な野鳥となかなかお目にかかれない野鳥の羽を、毎日 12 種類(3 日間合計 18 種類）準備し、参加者に好みの羽を選んでもらい、しおり作りを行ってもらいました。

3 日間合計 173 名に参加していただきました。

作成の手順は以下の 4 点です。

①最初に好みの野鳥の羽を選びます。
②選んだ羽をフィルムにはさみます。
③機械（ラミネーター）にかけます。
④ひもをつけます。

みなさんが一番時間をかける作業は、②のフィルムにはさむ作業でした。

選んだ羽をいかに美しく見せるか、完成をイメージしながらレイアウトしていました。

人気があったのは、カワセミ、カワラヒワ、アオバト、トラフズク、アオゲラ、サシバなどでした。色彩や模様の美しいものが好まれていたようです。

このしおりを使う際に、少しでも野鳥や自然について考えていただければと思います。

愛鳥センターの行事はほとんどが「参加費無料」ですので、お気軽にご参加ください。

作成の様子

完成！

§　新潟県野鳥保護の集い　§

新潟県野鳥愛護会との共催行事である「平成 28 年度新潟県野鳥保護の集い(魚沼市)」を 6 月 18 日～19 日に魚沼市「浅草山荘」・浅草岳山麓を会場に開催しました。（参加者数：42 名）

○新潟県野鳥保護の集い　18 日(土)19:00～21:20

【発表】「当間とその周辺の自然」
新潟県野鳥愛護会　　南雲 敏夫 氏

・当間とその周辺の野鳥や動物の美しい写真をユーモラスに紹介していただきました。

【講演】「雪国の里山生態系 ～里山環境と鳥類～」
日本野鳥の会新潟県　桑原 哲哉 氏

・雪国の里山環境について紹介した後、自然環境と生態系の密接な関係について、サシバをとおして解説していただきました。

【発表】「ヤマネの夢は雪の下？超豪雪地の自然環境を考える」
新潟県立浅草山麓エコミュージアム
桜井 伸一 氏

・エコミュージアム(環境学習拠点施設)を紹介した後、天然記念物「ヤマネ」を通して、地質、豪雪が与える自然環境について発表していただきました。

○早朝探鳥会　19 日（日）4:00～8:00（晴れ）

・キビタキやキセキレイが良く鳴く中、3 班に分かれて観察会をスタートしました。アカショウビンが近くで鳴き交わすのも聞かれ、姿を見られた班もありました。ニュウナイスズメの♂♀や川の上を飛んでいくミサゴ、頭上で飛び交うイワツバメ十数羽の群れなどを見ながら道を進みました。川沿いではカワガラスがちょこちょこ現れ、枯れ木に止まるオオルリも何度も見ることができ、満足の観察会となりました。

観察種：ヤマドリ、カルガモ、キジバト、アオバト、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ヨタカ、イカルチドリ、ミサゴ、トビ、ツミ、サシバ、ノスリ、アカショウビン、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ニュウナイスズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ　　合計 45 種

§　愛鳥集会（藤塚浜小学校）　§

5 月 10 日から始まる愛鳥週間にあわせて、5 月 25 日に愛鳥モデル校である新発田市立藤塚浜小学校の 3・4 年生を対象に「愛鳥集会」を開催しました。

野鳥観察の説明を聞いた後、3 班に分かれてセンター周辺にある畑、池、林を指導員とともに観察しました。ホトトギスやコゲラ、キジの鳴き声を確認したり、シジュウカラが巣箱を出入りするところを観察することができました。枝に止まった鳥を見つめる児童の真剣な眼差しがとても印象的でした！

指導員の布川耕市氏と小泉醇氏には丁寧に解説していただきました。ありがとうございました。

観察会の様子

「感想」と「感謝の言葉」

§4～6月の探鳥会・観察会§

4/24（日）春の渡りを見る会　6:30～9:15　（晴れ）
場所：大峰山　参加者:36名　観察種：32種【①】

アオゲラの声を聞きながら林道を進むと、ミソサザイが威勢よく鳴き、枯れ木に止まる姿も見られました。エゾムシクイやセンダイムシクイも元気にさえずり、オオルリは青く光る美しい姿が何度も見られました。遠くでコマドリが鳴く声も聞くことができました。

5/5（日）春の初心者探鳥会　8:30～10:00　（曇り）
場所：愛鳥センター周辺　参加者:27名
観察種:17種【②】

畑ではキジやセンダイムシクイ、キビタキがよく鳴き、電線に止まるコムクドリのオス2羽を見ることができました。池ではカルガモが見られ、巣箱にエサを運ぶシジュウカラを観察することができました。

5/15（日）愛鳥週間探鳥会　6:30～9:20　（晴れ）
場所：大峰山　参加者:33名　観察種：38種【③】

ホオジロやオオルリがよくさえずり、ツツドリの声も響いていました。見晴しの良いところに出ると、頭上をハチクマ数羽が次から次へと渡っていくところを観察できました。その後、ケンカするオオアカゲラや、木に止まるサシバなども見ることができました。

6/5（日）三光鳥を聞く会　6:30～8:40　（晴れ）
場所：剣龍峡　参加者:35名　観察種：21種【④】

開始早々からサンコウチョウの鳴き声を聞くことができ、終盤頃には姿をちらっと見ることができました。アカショウビンも遠くで鳴き、オオルリがエサを運ぶ貴重な場面にも遭遇することができました。

6/26（日）紫雲寺記念公園探鳥会　9:00～10:30（晴れ）
場所：紫雲寺記念公園　参加者:11名
観察種：15種【⑤】(紫雲寺記念公園グループ共催)

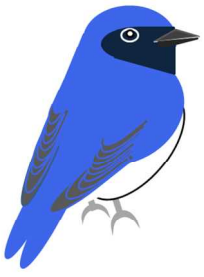
林ではキビタキが良く鳴き、姿も見られました。上空をミサゴが通過し、シジュウカラの巣立ちヒナ数羽や、池の茂みから飛び出すキジにも出会いました。畑ではホオジロが電線に止まってさえずっていました。

愛鳥週間探鳥会のようす

探鳥会の確認鳥種

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	ヤマドリ	●				
2	キジ	●	●	●		●
3	カルガモ		●			
4	キジバト	●	●	●	●	●
5	アオサギ	●		●		
6	ツツドリ			●	●	
7	アマツバメ			●		
8	ミサゴ			●		●
9	ハチクマ			●		
10	トビ	●				
11	ツミ			●		
12	ハイタカ			●		
13	サシバ	●		●		
14	ノスリ			●		
15	アカショウビン			●	●	
16	カワセミ			●		
17	コゲラ	●		●	●	●
18	オオアカゲラ			●		
19	アカゲラ			●		
20	アオゲラ	●		●	●	
21	サンショウクイ			●	●	
22	サンコウチョウ				●	
23	カケス	●		●		
24	オナガ		●			
25	ハシボソガラス	●	●	●		
26	ハシブトガラス	●	●	●	●	●
27	ヤマガラ	●		●	●	

No.	種名	①	②	③	④	⑤
28	ヒガラ	●		●	●	
29	シジュウカラ	●	●	●	●	●
30	ツバメ			●		●
31	イワツバメ	●		●		
32	ヒヨドリ	●	●	●	●	●
33	ウグイス	●		●		
34	ヤブサメ	●		●	●	
35	エゾムシクイ	●				
36	センダイムシクイ	●	●	●		
37	メジロ	●	●	●	●	●
38	ミソサザイ	●			●	
39	ムクドリ		●			●
40	コムクドリ		●			
41	トラツグミ	●				
42	クロツグミ	●		●	●	●
43	コマドリ	●				
44	キビタキ	●	●	●	●	●
45	オオルリ	●		●	●	
46	スズメ	●	●	●		●
47	ハクセキレイ		●			
48	カワラヒワ	●	●	●	●	●
49	イカル			●	●	
50	ホオジロ	●	●	●	●	●
51	カシラダカ	●				
52	アオジ	●				
	計	32	17	38	21	15



§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成 28 年 4 月 1 日～7 月 31 日までの収容数は、鳥類 53 種 196 羽、獣類 0 種 0 頭で、昨年度の同時期（鳥類 225 羽、獣類 3 頭）と比べ鳥類、獣類ともに減少した。

＜その他＞

・ムナグロ　7 例目（平成 4、17（2）、22、26、27 年）

平成 28 年度　4 月～7 月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数	収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数
	（鳥類）							25	アカショウビン		1			1	0
1	キジ		5			5	0	26	カワセミ		8			8	0
2	コハクチョウ	3	4			4	3	27	ヤマセミ		1				1
	オオハクチョウ	3				2	1	28	アオゲラ		1			1	0
	マガモ	1					1	29	チョウゲンボウ	1	6	4		2	1
3	カルガモ	1	8	3		5	1	30	ハヤブサ		1			1	0
4	コガモ		1			1	0	31	モズ		1	1			0
5	カイツブリ		1			1	0	32	オナガ		2	1		1	0
6	キジバト		5			5	0	33	ハシボソガラス	1	3			3	1
7	アオバト		2			2	0	34	ハシブトガラス		1			1	0
8	ゴイサギ		4			4	0	35	シジュウカラ		5	3		2	0
9	アオサギ		1			1	0	36	ヒバリ		2			2	0
10	ダイサギ	1	1				2	37	ツバメ		25	5		19	1
11	カッコウ		1			1	0	38	イワツバメ		2			2	0
12	ムナグロ		1			1	0	39	ヒヨドリ		4			4	0
13	ヤマシギ		4			4	0	40	ウグイス		1			1	0
14	ウミネコ		4			3	1	41	メジロ		1			1	0
	セグロカモメ	1					1	42	ムクドリ		10			10	0
	オオセグロカモメ	1					1	43	コムクドリ		1			1	0
15	ミサゴ		1	1			0		クロツグミ	1		1			0
16	トビ	3	2	1			4	44	ノゴマ		1			1	0
17	オオタカ		3	3			0	45	ジョウビタキ		1			1	0
18	サシバ		4	1		2	1	46	キビタキ		1			1	0
19	ノスリ	1	2	1		1	1	47	オオルリ		2			2	0
	クマタカ	1					1	48	スズメ		25	5		18	2
20	オオコノハズク		1			1	0	49	ハクセキレイ		9	4		5	0
21	コノハズク		1			1	0	50	セグロセキレイ		1	1			0
22	フクロウ		6	1		5	0	51	カワラヒワ		6	1		5	0
23	アオバズク		2	1		1	0	52	ドバト		4	1		3	0
24	トラフズク		4			3	1	53	不明		2			2	0
									合計	19	196	39	0	151	25

【愛鳥センターからのお願い】

釣り糸や釣り針は持ち帰りましょう

愛鳥センターに収容される野鳥たち（特にカモメ類）の中には、釣り糸（テグス）や釣り針による被害を受けたものが多く見られます。

池や海岸に捨てられた釣り糸にからまると、身動きが取れなくなったり、血が通わなくなって足が取れてしまったりします（釣り糸は丈夫なためなかなか切れず、しかも腐りません）。釣り針がついたまま捨てられた魚やルアーなどをエサと間違えて飲み込むものもいます。

針がのどの奥深くに食い込むと、エサが食べられず弱って死んでしまいます。

予防はかんたん。**「釣り糸や釣り針を捨てない」ことです。**捨てられた釣り糸や釣り針はゴミとなるだけでなく、野鳥の命も奪っているのだということを多くの方に知っていただき、基本的なマナーを守るということを心掛けていただければと思います。

§ 愛鳥センターで働き始めて　岡崎 慶子 §

今年の 4 月に愛鳥センターに来てからもうすぐ半年が経ちます。

小さい頃から鳥が好きだったので、愛鳥センターで働くチャンスが来るなんて幸運でした。飼育舎に現在いる白いアルビノのハシボソガラスとは小学校以来の再会となりました。

私にとって野鳥の魅力の一つは、探してもなかなか見つからないときもあれば、ふっと思いがけず出会えることもある、そんなところが挙げられます。まだまだ見たことのない野鳥もたくさんいますので、これからも楽しみがたくさんです。

探鳥会では、一人では見つけられなかったであろう野鳥を他の参加者の方に教えてもらったり、さらに講師の先生から詳しい知識を教えてもらえますので、ますます鳥好きが進んでいます。そして鳥好きな人がたくさんいらっしゃること自体にもまた嬉しさを感じます。

野鳥に興味があると、その季節の植物や苦手だった昆虫にまで興味がわいてきます。これも魅力の一つだと思います。ついに昆虫の図鑑も手に入れました。

救護棟には、衝突などで傷を負ったり脳震とうを起こしたりした野鳥が運ばれてきます。放鳥できるのはわずかで、死んでしまう野鳥の方が多いのが残念です。野鳥にとって何が大切であるか考えさせられます。野鳥にとって怪我を負うことは、人間のように病院へ行けば治るというものではなく、死に限りなく近づいてしまうことを知りました。厳しい自然環境や食べたり食べられたりする生態系のしくみのなかで野鳥が生きているということは、当たり前のようでいてとても尊いことなのだと感じます。

現在、飼育舎にいる鳥はそれぞれの状態や事情から放鳥は難しい鳥がほとんどです。残念なことではありますが、羽の模様や食事の様子などを近くで見ることはなかなかできないことなので、掃除をしながらありがたく見させてもらっています。

毎日、身近な鳥たちが元気でいる姿を見かける度に、思わず笑顔になり、こちらも元気をもらっています。

§ レクチャールームの貸出しをはじめました§

愛鳥センターでは 2 階の「レクチャールーム」を野生鳥獣保護思想の啓発に関する活動を行っている機関や団体に貸出しを行っています。各種学習会、講演会、研修会等にご利用ください。
（最大 80 人まで利用できる広さです。）
※使用料は無料です。

使用できる者

・自然、野生鳥獣に関する事業を行う新潟県内に住所のある者です。
・国、県、市町村の機関等、学校法人、社団法人、NPO 法人等の団体又は企業、グループ等が営利目的でない研修会、講演会等を行う場合です。

使用できる事業

自然、野生鳥獣に関連する事業で下記に該当するものを除きます。
・営利を目的とする事業
・政党活動を目的とする事業
・宗教活動を目的とする事業
・公序良俗に反すると認められる事業

使用できる日時

休館日以外の日で事業に支障のない日時です。
・休館日　毎週月曜日
（月曜日が休日の場合はその翌日）
12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで
・使用時間（準備から後片付けの時間を含む。）
火曜日～日曜日
午前 9 時～午後 4 時

使用申込み

①事前に電話で利用状況を確認し、仮予約をしてください。（電話予約ができる日は原則として利用予定日の 3 か月前からです。）
②仮予約ができたら 、「庁舎等使用許可願」を提出してください。「庁舎等使用許可願」は、使用する日の 3 か月前から提出できます。
③使用が可能な場合は「庁舎等使用許可書」を送付します。

●詳しくは下記のアドレスにて御確認ください。
「愛鳥センターレクチャールームの貸出しを行います」
http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/1356837591961.html

§ 巣箱作り教室 §

夏休みの恒例事業「巣箱作り教室」を 8 月 21 日（日）に開催しました。（参加者：7 組 18 名）

講師の白井康夫先生に巣箱と野鳥について講義をしていただきました。日本では約 20 種類の野鳥たちが巣箱を利用します。巣箱を利用する野鳥たちには、木の穴や崖のくぼみなどに巣を作る習性があります。しかし、最近の町や山には、穴のある木やくぼみのある場所が少なくなっています。巣穴の代わりとして「巣箱」を作って繁殖の手助けをしてあげることで自然環境の保護につながることを教えていただきました。その後、板を選んで作業に取りかかりました。

①板に線を引く→②穴を開ける→③切る→④組み立てるといった手順で巣箱を作っていきました。

講師やスタッフに手伝ってもらいながら全員が見事に設計図どおりに完成させました。

制作を終えた後、巣箱は「いつ頃」、「どんな場所に」かけたらいいかについて学習しました。最後に実際に巣箱の取付け方の実演を見学して教室を終了しました。

参加者からは、「巣箱の設置場所、丁寧に教えていただいてありがとうございました。スズメが入りますこと楽しみに飾らせていただきます。」など感想をいただきました。

制作の様子。集中して作業に取り組んでいます。

4～7 月の来館者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	計	累計
来館者数	781	1, 885	1, 957	762	5, 385	593, 440

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 28 年 5 月～平成 28 年 8 月　**8，４４７ 円**

累計**２６８，５１６円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。

今後ともご協力をお願いいたします。

1 月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・秋の渡りを見る会（ビュー福島潟駐車場集合）
　10/23（日）　9:00～11:00

・紫雲寺記念公園探鳥会（愛鳥センター集合）
　10/30（日）　9:00～10:30　定員：20 名
　※この探鳥会は申し込みが必要です。
　　紫雲寺記念公園グループ　0254-41-3740

・冬の初心者探鳥会（瓢湖白鳥会館駐車場集合）
　11/ 13（日）　8:00～9:30

・鳥屋野潟市民探鳥会（鳥屋野潟公園駐車場集合）
　12/ 4（日）　8:30～10:30

・五十公野公園探鳥会（五十公野公園駐車場集合）
　12/11（日）　9:00～11:00

観察会、講座

・足跡ウォッチング（愛鳥センター集合）
　1/15（日）　9:00～11:00

講演会ほか

・愛鳥講演会（県立生涯学習推進センター）
　11/23（水･祝）13:00～15:30
　内容：テーマは「猛禽類」です。
　講師：日本野鳥の会新潟県会長　石部久氏
　ｽﾗｲﾄﾞ発表：山崎勝明氏
　参加費：無料　/　定員：150 名（先着）
　申込：11 月 16 日（水）までに愛鳥センターへお申込みください。

・平成 28 年度自然保護ポスター原画入選作品展
　（階段ロビーで展示）
　10/22（土）～11/13（日）

・冬季特別展（2 階ロビーで展示）
　10/29（土）～2/19（日）

・野鳥写真展開催
　県内で撮影した野鳥写真を募集します。
　詳細な応募条件等は HP をご覧いただくか、直接愛鳥センターへお問い合わせください。
　締切：平成 29 年 1 月 7 日（土）

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp